



# 西前小だより



横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/nishimae/>

自分自身をみつめ直すことができるか

校長 鳥飼信幸

県立音楽堂において西中学校の合唱を聴きました。一人ひとり違う声、一人ひとり違う性格をもっているみんなが心をひとつにし、声を合わせ、美しいハーモニーができたときに感動しました。つい半年前まで小学生だった中学1年生は、心も身体も成長していました。子どもたち自身の努力による成長は当然です。そして、中学校の先生方の指導・支援によって成長したことも感じました。併設型小中学校として、今後も9年間で「子どもが育つ学校」としていきます。オープニングセレモニーでの石川校長先生と生徒とのパフォーマンスも面白かったです。

本格的なラグビーシーズンが始まりました。母校は来週から花園(全国大会)に向けて、公式戦が始まります。今年こそ、全国屈指の強豪校に勝って花園に出てほしいです。

ちょうどこの時期、公式戦に出場するための紅白戦が行われます。紅白戦でアピールできれば公式戦に出られることとなります。その逆であれば出られなくなります。また、ケガをすれば出られなくなります。約100名の部員で、しのぎを削っての戦いとなります。私が高校3年のこの時期も同じように紅白戦が行われました。私は過去2年間ケガによる手術と入院を繰り返し、練習もできない日々を過ごしました。後輩からは馬鹿にされ、監督に見放された存在でした。心身ともに疲弊し、何度も「辞めたい」と言っていました。同期から「辞めんな、お前が1年生の時に頑張っていたこと覚えとうばい」「リハビリを頑張っていること、わかっとうばい」と、いつも話してくれました。その話を聞きながら、自分を顧みず、状況を打破できるだけの力が私にはありませんでした。失望で自分が嫌になり自分自身を粗末に扱い、やけくそになっていました。勉強の成績も落ちる一方でした。もう一つ、「ケガをしたのはラグビーのせい」「ケガをしているのに誰も見向きもしない」「ラグビーのせいで勉強もできなくなった」など、人のせい、環境のせいにしていく自分がありました。

3年の夏ぐらいから、鎖骨にボルトが入ったまま、ようやく通常の練習ができるようになりました。心の中では、「ラグビーはもう終わり」と思っていました。いまさら公式戦に出ることなんて無理だからです。

第1シードの強豪校と対戦するまで勝ち進みました。事実上の決勝戦です。その試合の前にも、いつものように紅白戦が行われました。私はその紅白戦に出ることになりました。「なんで？」と思いました。「ラグビーはもう終わり」と思っていたらからです。紅白戦では、相手チームは同期の3年生中心としたチームでした。格上のレギュラーメンバーです。こちらは2年生主体のチームでした。

試合が始まりました。後輩からは馬鹿にされ、監督に見放された存在だったので、後輩たちは私にはボールをパスしてくれません。信用されていないからです。チャンスになってもパスをしてくれないのです。「しかたがないな」と諦めていました。その試合は、なぜか拮抗した試合になりました。気持ちが入っていない私にとって、試合を他人事のように観る余裕があったぐらいでした。バックスの私の反則で、フォワードの後輩たちがスクラムを組むことになりました。ふとスクラムを組んでいる後輩を観ると、真っ赤な顔をして苦しい表情で汗を流しスクラムに耐える姿を観ました。私の反則なのに、後輩たちが私のミスをカバーしているわけです。そこで、ようやく気付きました。「おれはなにをやっているんだ」と、自分の腐った心を猛省しました。「後輩たちのためにも」という心が同時に起こりました。それは一瞬だったと思います。

そして、目の前にくる相手すべてにボルトの入ったほうの肩で何度も何度もタックルしました。倒れては立ち上がり倒れては立ち上がり、がむしゃらにボールを奪うことを率先して行いました。後輩のプレーにも「次だ」と声をかけ続けました。そうしていると、なぜか私にパスがまわってくるようになりました。格上の相手からなんとか奪ってくれた大切なボールでした。そんな大切なボールを試合終了間際、私にパスをしてくれました。相手の陣形を見てキックを蹴りました。当時はセオリーではないプレーでしたが、とっさに考えたプレーでした。そのボールを私も相手も必死に追いかけ、なぜか楕円球のボールは私の胸に飛び込んできました。そのままトライ。後輩たちがかけ寄ってきて「ナイストライ」と言ってくれました。「みんなのおかげ」と言いました。そこで試合終了。8対4（当時のルール）のワントライ差で負けました。高校3年間の試合の中で、私がいちばん印象に残っているのは公式戦ではなく、この紅白戦です。

そして公式戦前日、公式戦にしか着ることができないラグビージャージを一人ひとりに渡す神聖な儀式がありました。そこには約100人の部員が輪になって臨みます。監督に一人ずつ名前を呼ばれ、一言もらい手渡されます。みんなが拍手をして、言葉をかけ合います。独特な雰囲気のある儀式です。もらった人はみんな、涙します。プロップの1番から始まりました。大きな声で「ハイ」と言って手渡され泣いていました。監督からの一言に「ハイ、ハイ」と泣きながら大きな声で答えていました。私は一人ひとりに拍手と声援を送りました。

3年間いっしょに頑張ってきたからです。そして、最後のジャージを渡される番になりました。監督が「鳥飼」と呼びました。「オレ?」と思いました。監督のほうへ行き、「頼むぞ」と声をかけられたと思います。覚えていません。みんなから何かを言われ拍手をされたのですが覚えていません。公式戦のジャージに袖を通したのは、高校1年の最初の公式戦と、高校3年の最後の公式戦の2回のみです。

いつもように、みんなといっしょにワイワイしゃべりながら帰ったのですが、そこでの会話も覚えていません。キャプテンに「鳥飼、がんばれよ」と言われたことはなんとなく覚えています。帰宅し、母に公式戦用のラグビージャージを見せました。「よかったね」と言ってくれました。その言葉で涙が出てきました。ケガで入退院をくり返し、病弱な母に看病までさせたことを思い出したからです。人のせいにして、ラグビーも勉強もいい加減、自暴自棄になっていたことも何も言わず、すべて見守っていた母から言われたからです。「今までラグビーを続けてよかった」と、ようやく思えました。経済的に厳しい生活をしていたので、やっとの思いで工面して買ったスパイクを磨き、ていねいにたたんだジャージとともに枕元に置いて寝ました。

自分のことを俯瞰的に捉えメタ認知をはたらかせるきっかけとなりました。「自暴自棄になっている自分」や「人のせいにしてる自分」をみつめ直すことができました。また、「自分がいかにたくさんの人に支えられてきたのか」にも気付かされました。卒業後、監督に私を抜擢するよう懇願してくれたのがキャプテンだったことを知りました。気付くのが遅い私です。反省しました。

子どもたちに何か問題が起きた時、私たち大人は自分のことを俯瞰的に捉えメタ認知をはたらかせ、みつめ直すことができるのかを試されます。

ある社会学者によれば、「何でもかんでも悪いことがあると人のせいにして、他人を責めている人を見ると、あれだけ何でも人のせいでできれば、生きるのが楽だろうと思うが、実は逆なのである。彼は周囲から見るとなんて迷惑で、なんて勝手な人なんだろうという気がするが、本人は周囲の人よりも苦しんでいる。」「彼は何をしても、自分が悪いと自分で責任をとろうとしない。彼は生涯責任転嫁をし続けた。そして生涯苦しみ続けた。彼の苦しみは年をとるにしたがって激しいものになっていった。彼はいつも怯えていた。誰と会っても虚勢を張ったり、迎合したり、いつもビクビクしていた。それよりも最後はどう生きていいかもわからなくなり、苦悶のなかで生きていた。」「重荷から逃げるにしろ、責任転嫁にしろ、その場が楽なことは最後には大きなつげとなって本人に返ってくる。」と書かれていました。

子どもたちに何か問題が起きた時、「子どもが悪い」「誰かが悪い」（人のせい）「環境が悪い」にするのではなく、まず私たち大人が試されていると感じ、自分のことを俯瞰的に捉えメタ認知をはたらかせ、いちばんは「子どもに寄り添っているのか」を、ふりかえらなければならないと思います。私は紅白戦の時の自分の心にもどって、自分の悪いところを認め、「自分自身をみつめ直すことができるのか」とも思いました。

子どもたちの成長を第一とし、子どもたちの成長を喜びとした保護者・地域の皆様、学援隊の皆様、教育委員会の皆様、区役所の方々、警察・専門機関等の皆様の笑顔のためにも頑張ります。

## 参考文献

\* Ellen J. Langer, Mindfulness, Adison-Wesley Publishing Company, Inc. 1989.

\* 加藤諦三 著『人生の重荷をプラスにする人、マイナスにする人』（PHP 研究所）1998 より内容を一部抜粋

学校ホームページへのアクセスはこちらから →



## 【土曜スクール】

今年度も感染症予防のため「オープンデー」ではなく、「土曜スクール」として実施いたしますのでご了承ください。

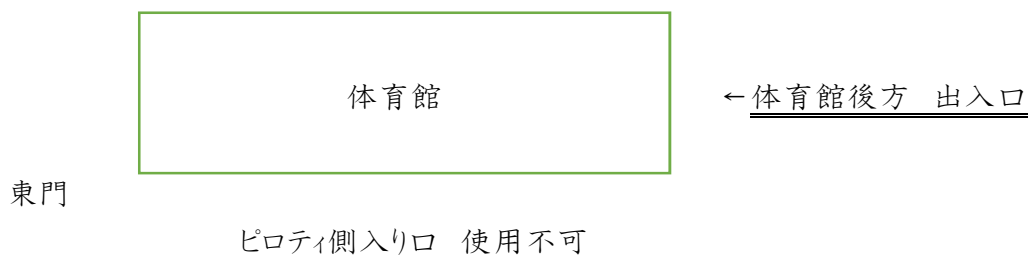
日時 令和4年11月26日(土) ※振替休日 11月28日(月)

通常登校4校時(給食あり) 13:40下校

1校時	8:45~9:30	にしまえコンサート (zoom開催)	<u>参観不可</u>
2校時	9:40~10:20	3,4年生 体育館 サイバー教室(携帯・ネット安全教室)	参観可
3校時	10:45~11:30	2年生 体育館 非行防止教室	参観可
4校時	11:35~12:20	5年生 体育館 サイバー教室(携帯・スマホ安全教室)	参観可
給食	~13:05		参観不可
清掃	~13:25		参観不可
帰りの会	13:25~13:40		参観不可

※6年生のサイバー教室は学級で実施。1年生の安全教室は実施済み。

- 保護者の方の参観は体育館のみです。(開場は9:30)
- お子様の学年以外の参観も可能です。
- 保護者証、室内履き、外履き入れをお持ちください。
- マスクの着用をお願いいたします。



令和4年度 11 月 学校行事予定 予定は変更されることもあります。  
下校時刻

日	曜	朝	行 事	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	火		歯科検診 (1~3年)	14:40			15:30		
2	水		5年日産ものづくりキャラバン	13:40	14:40				
3	木		文化の日						
4	金		火災避難訓練	14:40			15:30		
5	土								
6	日								
7	月	朝会	委員会活動 4年出前授業	14:30				15:30	
8	火		1年遠足 (野毛山動物園)	14:40			15:30		
9	水		特別時程 全学年4校時	13:15					
10	木		特別時程 全学年4校時	13:15					
11	金		大掃除 全学年5校時	14:40					
12	土								
13	日								
14	月		クラブ活動	14:30			15:40		
15	火		歯科検診 (4~6年、4・5組) 全学年5校時	14:40					
16	水		4年心のバレエ教室 代表委員会 1年幼保小交流	13:40	14:40				
17	木		6年13:30下校 2年遠足予備日 1年幼保小交流	14:40	15:30			13:30	
18	金		6年日光修学旅行	14:40			15:30		泊
19	土		6年日光修学旅行						
20	日								
21	月		6年代休	14:30				休	
22	火		1年遠足予備日	14:40			15:30		
23	水		勤労感謝の日						
24	木	集会		14:40		15:30			
25	金			14:40			15:30		
26	土		土曜スクール (にしまえコンサート、サイバー教室)	13:40					
27	日								
28	月		代休						
29	火		3年消防署見学	14:40			15:30		
30	水			13:40	14:40				

お願い	今月のスクールカウンセリング	12月の予定
<p>年間行事計画で予定されていましたにしまえコンサートは、感染症予防の為、子どもたちだけの音楽集会として動画視聴の形式で実施致します。</p> <p>引き続き、来校前の体温チェック、健康観察等宜しくお願いします。</p>	<p>佐藤久子カウンセラー来校日</p> <p>11月 4日午後(金) 11月11日午前(金) 11月18日午後(金) 11月25日午前(金)</p> <p>予約相談窓口 児童支援専任 白石貴男教諭</p>	<p>12/2 (金) 4年にぎわい座 12/5 (月) 委員会活動 12/9 (金) ポッチャ教室 12/12 (月) クラブ活動 12/23 (金) 授業最終日 給食終了 12/24 (土) 冬季休業開始(~1/9) ※6年面談 13 (火) 15 (木) 16 (金)</p>